

湘南ひらつかキャンパス (SHC) に小さなビオトープが作られたのは 2 年前の 5 月のことです。何と SHC の開設時には既に今のかたちに近いものが作られていたのですが、20 年の歳月の中で灌木や雑草にすっかり埋もれていたのです。小さな池が一つと小さな水たまりのようなものが 5 つ、新たに水漏れがしないように作り直されました。そしてそのまわりには湿地に相応しい草木や水草が植えられました。

生き物たちのちからは凄いですね。水の匂いがわかるのでしょうか。まわりには赤土がまだむき出しの池にすぐにオタマジャクシが現れ、何週間かたつとかわいらしいシュレーゲルアオガエルの赤ちゃんがハンゲショウやガマの葉に沢山留まっているではありませんか。それからしばらくするとシオカラトンボ、イトトンボ、ギンヤンマ、そしてオニヤンマもやってきました。

このようにして最初の夏、秋、冬が過ぎ、2 年目の春夏秋冬を過ごしたビオトープはかなり自然な姿になりました。毎日のように氷の張る冬を過ごし 3 年目の春を迎えた池のまわりはにわかには活気づいてきました。

フキノトウもずいぶん大きくなり白い花を咲かせています。小さな流れの中にはセリも育ち始め白い花をつけています。



<フキノトウ>



<セリ>

池の周りに植えられているイロハモミジ、ヤナギ、ヤマブキ、ヤマアジサイ、コナラなどなどの木々は新芽を出し様々な形と色を競っています。

ビオトープの外では桜やユキヤナギの花がひととき目立ちますが、内では意外と色のついた花が少ないと思って探してみるとありました。径が 1 cm ほどと小さい上に数も少ないので目立ちませんが、綺麗な花です。ウグイスカズラで初夏には可愛い真っ赤な実が成ること

<ウグイスカズラ>→

(文と写真：松本正勝)

